

編集後記

文学研究科のCOE事業もいよいよ本年度末に完了いたします。本誌『都市文化研究』は新年度からも引き続き発行の予定ですが、本第9号をもってその任務の第一段階を締めくくることになります。おかげさまで本号では「論文」3編、「研究ノート」5編、さらに「特別寄稿」1編を掲載し、充実した内容で第二段階への橋渡しを整えることができました。これもひとえにこれまで数々のご批評やご助言を下さいました読者の皆様のお力添えがあつてのことと、編集委員一同、心より感謝いたしております。

第1号から本号に至るまで『都市文化研究』はCOE事業の成果発信媒体として中核的な役割を担ってきました。掲載論文のいずれもが人文科学における都市文化研究の到達点を示すものであることは言うまでもなく、その中で展開された議論のそこかしこに新たな研究の可能性を開拓しようとする姿勢を見ることができましよう。さらに、論考を執筆した若手研究者の多くがそれぞれの研究成果を発展させ学位取得に至ったことは、若手研究者の育成というCOE事業の目的に照らして十分貢献ができたものと自負するところであります。ただ海外への発信力が幾分か不足であった点は、今後の活動の中で目指すべき目標として掲げたいと思います。

過去5年間、『都市文化研究』ならびに本研究科のCOE事業に対しまして皆様から寄せられたご支援にあらためて深謝いたしますとともに、今後ともなお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(仁木 宏・編集委員長／神竹道士・第9号編集主任／多和田裕司・第9号編集主任)